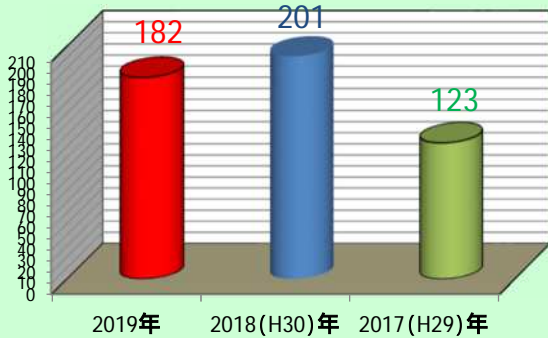


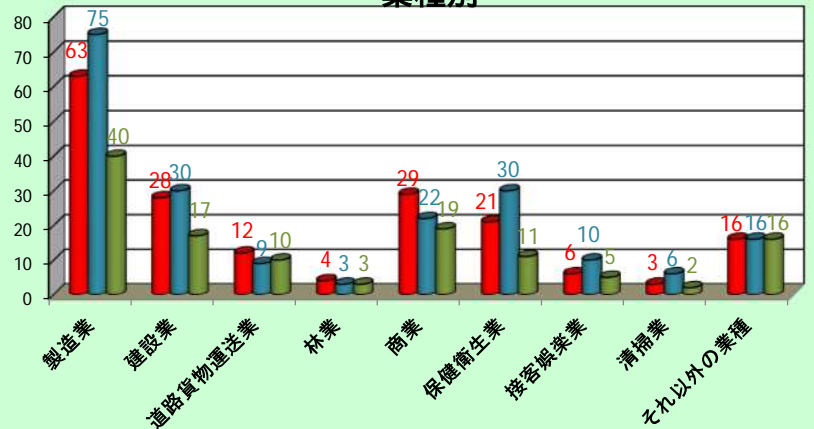
2019年11月末現在 労働災害発生状況

☆ 災害発生件数は昨年同時期より減少したが、一昨年と比較すると約48%増加 ☆
 ☆ 昨年と比較して災害発生件数が下回る業種が多いが、商業・道路貨物運送業は増加 ☆

1. 災害発生状況 全業種

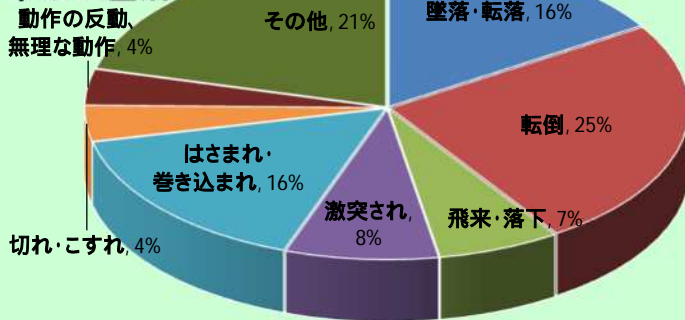


業種別

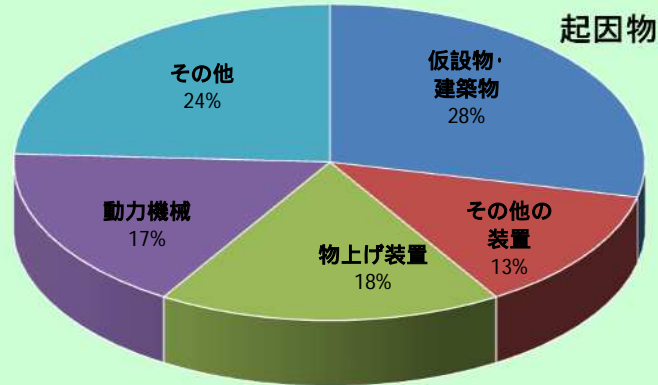


2. 事故の型別・起因物別発生割合

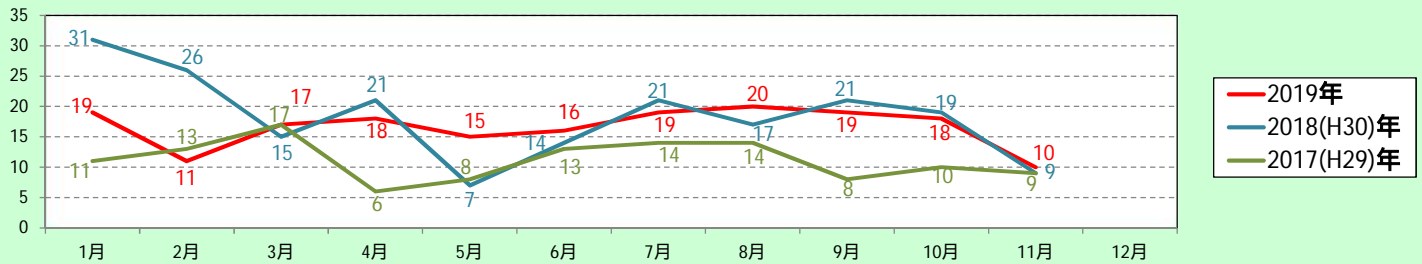
事故の型別



起因物別



3. 月別発生件数推移状況(全業種)



4. 労働災害の動向

死亡災害は、

1件

全体では、

休業4日以上の災害発生件数は平成29年の同時期と比較して約48%増加。
 (10月末時点も同様に約48%の増加)

災害の種類としては、転倒災害が25%を占め、最も多くなっている。
 また、はさまれ・巻き込まれと切れ・こすれ災害が全体の20%を占めるなど、昨年に引き続きはさまれ・巻き込まれ等災害が多発している。
 重篤な結果になりやすい墜落・転落災害も16%と高い割合になっている。

業種別の災害発生の傾向

<製造業> 経験年数が3年以内の労働者が約49%と半数近くを占め、経験年数が浅い労働者の災害が目立つ。
 はさまれ・巻き込まれ災害が最も多く、約38%を占めている。

<建設業> 被災者の約61%が経験年数が10年以上の労働者となっている。
 墜落・転落災害が最も多く約29%を占めている。

<商業> 被災者の約59%が50代以上。
 転倒災害が多く約34%、次いで墜落・転落災害が約28%。

<保健衛生業> 被災者の約81%が50代以上。事故の型は転倒が約半数を占める。